

とよなか市民環境会議 ニュースレター

Toyonaka Citizens Environmental Conference

2001年(平成13年)9月号(通巻第14号)

豊中まつりに協賛 環境プラザ開催

8月4日(土)・5日(日)「豊中まつり2001」が開催され、とよなか市民環境会議は協賛事業として豊中市民会館大集会室と出入口周辺で環境プラザを開きました。

若輩者ながらその実行委員長を務めさせていただき、皆さんのおかげをもちまして、無事終えることができました。

さて、今回の事業は、大集会室では協賛企業による展示、私たちの活動を紹介したパネル展示、生活部会の竹のコップによるお茶のサービス、自然部会による竹の工作教室などを行いました。

屋外では生ごみプロジェクトの皆さんで生ごみ堆肥を使って育てた焼きとうもろこし、枝豆の販売を行いました。

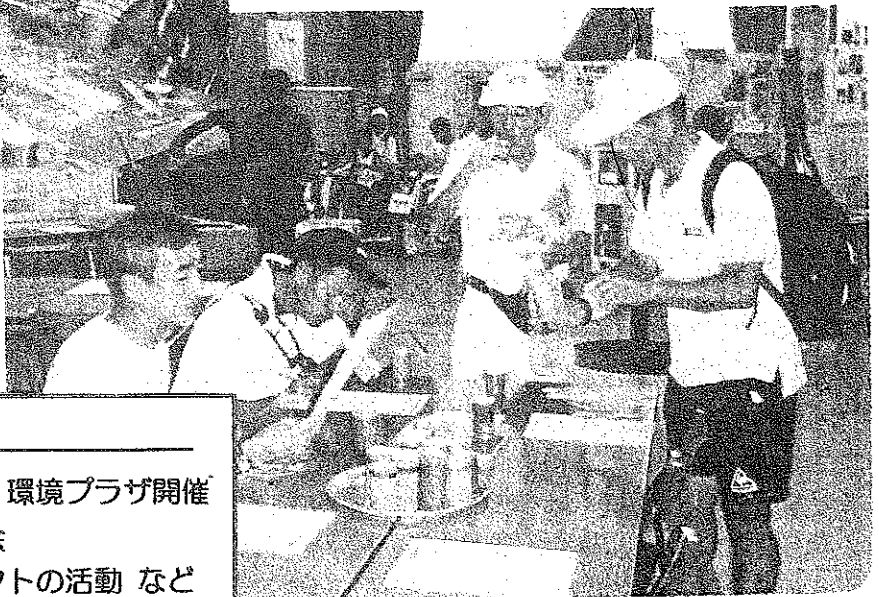
環境プラザの来場者は約1500人でした。毎年12月の「環境展」とはまた違った方に多く来場いただけたことは大変意義深いもので、今後の運動の参考になりました。

おまつり⇒遊び⇒環境という流れで子どもから大人まで意識を共有できればいいですね。

(中井)



竹細工で遊ぶ参加者



竹コップで飲む冷たいお茶が大好評

本号のハイライト

- P. 1 豊中まつりに協賛 環境プラザ開催
- P. 2~3 平成13年度 総会
- P. 4~5 各部会・プロジェクトの活動 など
- P. 6 参加団体の紹介・千里川を考える会
- P. 7 ひと・人・hito -橋本忠男さん-

とよなか市民環境会議 平成13年度総会

とよなか市民環境会議は平成13年度総会を6月20日、市民会館大集会室で開きました。参加者は254人、今回も市民の参加が多く盛会でした。

総会の司会進行は豊中青年会議所理事長和田浩一さんが行い、まず会長（一色貞輝市長）のあいさつ、続いて市議会議長清水正弘さんの来賓あいさつを受け議事に入り、以下のように報告と提案を各役員の間で行いました。

▽平成12年度の活動報告ならびにワーキンググループと部会の報告では次の5つの点が特徴的でした。12月の環境展は「とよなか市民環境展2000」の名称でワーキンググループが主体となって準備会をつくり、テーマを「循環型社会」「竹」に設定。出展なども市民環境会議参加団体だけでなく広く企業や市民団体に呼びかけ、2日間に30団体の参加を得て開催しました。

▽アジェンダ協賛金募集は、厳しい経済状況にもかかわらず寄付も含め137万円の協力を得ることができ、部会、プロジェクトの活動の支えとすることができました。

▽部会とプロジェクトの活動は多岐にわたっていますが、目立ったものでは買い物袋持参運動で小学校4年生とその保護者へのアンケートを行い新しい年代層のデータを得たこと。第15中に続いた刀根山小学校でのピオトープづくり。学校剪定枝の

堆肥化事業が前年度22校から今年度は34校に拡大したこと、などが挙げられます。

▽さらに、生ごみ堆肥化実験プロジェクトでは市役所の生ごみ堆肥化検討会議と連携して来年度から行政が事業化を進めるための資料を得ることができました。

▽その他、産業部会のエコオフィス活動チェックリストの取り組み、交通部会では京のアジェンダ活動での交通問題学習講演会や豊中駅前交通社会実験の学習などが、ストップアイドリング運動の継続とともに行なわれました。2001年度の活動方針では「アジェンダ21」をワーキンググループと連携して推進し、市民・事業者・行政の役割を明確にするため会則の見直しを行う」など、組織結成5年目にあたって新しい展開をめざす決意が示されました。その他、総会議事は会計決算の承認と新年度予算の決定、新年度役員体制を決定して終了し、第二部の記念講演（別項）に移りました。（奥野）

ワーキンググループ役員が替わる

率先行動部隊としての体制を確かなものにするため、今年5月17日のワーキンググループ定例会を総会とし、役員選出の議案を提出、運営委員会委員長に河野猪太夫さん、副委員長に新開悦子さん、会計に荒井道子さん、その他運営委員6人を決定しました。

今年も多くの団体にご協賛いただきました！

今年度の活動方針に基づき、依頼をしましたところ、次のとおり、36団体から協賛金をいただくことができました。これらは、活動資金として運用し、用途につきましては、来年度の総会でご報告します。

また、ご寄付もいただいておりますので、ご紹介します。

★協賛団体／豊中市排水設備工事指定業者協会、豊中市管工事協同組合、NTT西日本北大阪営業支店、豊中造園建設業組合、大阪ガス（株）北東部事業本部、豊中建設業協会、豊中商工会議所、協同組合大阪再生資源業界近代化協議会豊中支部、豊中環境事業協同組合、（株）バイオピコール、（株）マイカルナック商事 豊中サティ、（株）大丸ピーコック、大阪北生活協同組合、（株）関西スーパーマーケット、（株）いかりスーパーマーケット、

ネットワークが作る新しい市民社会

近畿大学理工学部助教授 久 隆浩 氏

世の中が大きく動いています。従来型の社会から新しい社会への模索が始まっています。新しい社会と言うのは、制度の時代からコミュニケーションの時代への変化でもあります。

その兆候は千葉県知事選挙の結果にも見られます。インターネットの呼びかけに応じて、多くの市民ボランティアが集まり、既成政党や既成組織の団結力を超えた大きな力を発揮したりする時代です。新しい力の前で古い政治の枠組みが揺らぎはじめています。

NPOやコミュニティ・ビジネスの展開にもインターネットが活躍し、小さな個人や組織でもつながることで大きな力を発揮できる社会になりつつあります。

それは、日本だけでなく世界の趨勢としても見られるようになってきました。社会システムとしてどれだけ転換を図ることができるかが大切な時代になっています。

ネットワーク型社会システムは次のような要因によって支えられます。

1. 垂直的でなく水平的で網状の組織
2. 命令と服従の関係でなく自発的結束
3. 制度化されたフォーマルな組織でなく、自然成長的インフォーマルな関係
4. 構造化の程度が低く、不定型でより相互行為が中心的
5. 厳格な結合でなく開放型で緩やかな結合
6. 境界が開放的で、周りの世界に絶えず触手を伸ばしている、など。

とよなか市民環境会議第6回総会&記念講演 ネットワークが作る新しい市民社会



とよなか市民環境会議の組織はさまざまな立場の主体が参画しています。そこでは、対話を通じて情報交換、ビジョンを共有していく活動が必要です。絶えず各主体がビジョンを共有しつつ、活動を積み重ねて行かねばなりません。立場の異なる主体が参画するからこそ補完原理が働き、役割分担や共生・協働の可能性が生まれます。

ネットワーク社会における新しいリーダーはファシリテーターとしての役割を持ちます。

1. 参加者の主体性をもって会議が順調に進むようさまざまな支援をおこなう。
 2. 自分の意見があっても自分で答えない。
 3. 中立的な立場を貫く。
 4. 発言の中から浮かび上がってくる共通点や相違点を整理しまとめる。
 5. リーダーはみんなが発言しやすいよう雰囲気づくりに配慮する。
 6. 表に出にくい気持ちを代弁する。
- などが重要です。

21世紀を動かしていく市民環境会議の力に大いに期待しています。(文責 奥野)

大阪大学生協同組合、千里阪急ホテル(大阪エアポートホテルも含む)、ホテル事業者アイボリー、阪急タクシー(株)、北大阪急行電鉄(株)、大阪高速鉄道(株)、阪急バス(株)、さわ病院、(財)生活環境問題研究所、(株)関西総合研究所、(株)三水コンサルタント、豊中ライオンズクラブ、豊中北ライオンズクラブ、豊中千里ライオンズクラブ、豊中南ロータリークラブ、豊中市教職員組合、日本労働組合総連合会豊中地区協議会、豊中市労働組合連合会、豊中交通安全自動車協会、豊中市歯科医師会、ゆうの会(南桜塚婦人会)
★寄付/豊中市労働組合連合会(くるくるリサイクルバザーの売上金)、大阪市職員組合



自然部会

大盛況のヒメボタル観察会



6月2日(土)午後7時より、春日町のヒメボタル観察会が豊中市環境企画課主催で行われた。この観察会は、これまで春日町の「ヒメボタルを守る会」や「とよなか市民環境会議自然部会」などの内部の観察会としては行われていたが、一般市民には公開されていなかった。今年度は一般に公開するというので、「広報とよなか」に掲載されたこともあり、募集人数をはるかに超える200人程が詰めかけ、大盛況となった。

これまでの観察から、ヒメボタルの最も出現しやすい時刻は、午後8時を過ぎてからということもあり、午後7時から野畑図書館で観察についての諸注意、ヒメボタルの生態についての川副先生の講演があり、午後8時15分頃から約300m離れた春日町の竹林に向けて3つの班に分かれて出発した。竹林の暗闇の中のあるちろちらで光の点滅が見られ、その都度参加者の中からは、神秘的な美しさに驚きと喜びの小さな声があがっていた。ちなみに本年のヒメボタルの出現は、

期間全体としては同じぐらいと思われるが、一時期に多く出現することはなく、少しずつだらだらと長期間にわたって出現したということ。当日確認できたのは参加者の1/10ぐらいの数(約20匹)でした。

(山口)

♂ヒメボタル♀

ヒメボタルは陸生のホタルで草むらに住んでいる陸生の巻貝を餌にして育ちます。

メスは草の葉や枝に捕まりながら発光し、それに惹かれてやってきたオスと交尾して受精し、翌日産卵を終えて死にます。メスは羽が退化して飛ぶことができないので、樹林や竹やぶなどの適度な湿度のある草むらが少なくなったり、連続性が失われると繁殖できなくなって滅びてしまいます。

街灯が明るいとホタルが相手の発光を見つけにくくなります。街灯のあり方も考えたいものです。

マイバッグ運動の新しい展開

生活部会

今年は、少し欲張って中学2年生とその保護者全員(それぞれ約3400人)へのアンケートを9月に実施することと、量販店店頭でのキャンペーンを11月に実施することの二つの活動に取りかかったところです。

また、運動の主体としても市民環境会議だけでなく、廃棄物減量推進員、とよなか消費者協会、そして市民環境会議の生活部会の三者が合同班をつくり議論をはじめました。

特に中学生向けのアンケートを作るについては、モデルになる前例があまりないので、繰り返し議論を重ねつつ試行錯誤のなかからなんとか成案を作り出しました。

マイバッグ合同班の活動が円滑に行くように、6月からほぼ月1回の会議を開いていますが、

その案内状もかねつつ前回の会議の報告を内容にした「マイバッグ・ニュースレター」を毎回発行し意思疎通をはかるようにしています。

でも、11月の量販店店頭でのキャンペーンは、できるだけ賑々しくやりたいと思っています。多くの皆様のご協力がいただけるよう、この場を借りてお願いします。どうぞよろしく。

(奥野)

MY BAG

○ニュースレター

2001. 8. 13. VOL. 1-3

発行：とよなかマイバッグ運動合同班
編集：環境教育推進員/とよなか消費者協会
/とよなか市民環境会議生活部会
連絡先：豊中市環境企画課 Tel. 6558-2104
豊中市環境事務センター Tel. 6558-2270

とよなかマイバッグ運動合同班 第3回会議を開催します
と 日 8月27日(日) 午後2時から
と ところ 五島ビル 203号室(市役所5階)

中学生と保護者へのアンケートまとめ

7月30日午後2時から開いたマイバッグ運動合同班の会議は出席者13人、中学生と保護者向けのアンケートについて話し、ほぼ決まりに近い原案を作成した。この案と現場の発注に原案を見せ、手を入れ、秋8月27日の第3回会議で議決の検討をおこない、9月の新学期スタートには間に合うよう印刷と発送の作業をすすめることにした。

第9回環境自治体会議

二つの会場で 「新しい文明への挑戦」



会議は5月23日(水)から25日の3日間(金)、滋賀県野洲町と新旭町を会場にして開催された。初日はあいにくの雨、しかし野洲文化ホールはほぼ満席で、地元雅楽演奏グループによる越天楽で優雅にオープニング。

開会式に続いてパネルディスカッション「21世紀！新しい文明への挑戦」をテーマに立命館大学の和田教授のコーディネーターで行われた。地元市長や、水俣市の吉井市長らによる環境への取組みについて報告があった。

午後は「エネルギー革命」をテーマに5つの分科会に分かれ、私は地域協働によるコミュニティ変革の事例発表会に参加した。行政担当としての取組みの話が多かったが、事業者ジャスコの「産学官民・共同プロジェクト」「こどもエコクラブ」の発表は興味深かった。コーディネーターの能村聡氏の言う地域協働で進めるプロセスの大切さ、期待されるシナジー(相乗)効果をどう引き出すかが鍵だなと思った。午後6時頃からの総会后、小ホールにて夕食交流会。

24日午前中は前日の分科会総括。午後はびわ湖大橋を渡り新旭町にて分科会「危機！容器包装リサイクル法とリサイクル」に参加。「リサイクル」「リユース」も増えているが、それ以上に「ワンウェイ(一方通行)」が増えている。ごみの抑制になっていない。大きすぎる自治体の負担、使い捨て製品の方が安い仕組み。容器包装リサイクル法の矛盾について批判が相次ぎ、悪法は改めるべきとの意見もでた。リサイクルの実態を知り、ごみ減量につながる仕組みの検討に取組む必要性を痛感した。夕刻から夕食交流会。宿に帰り豊中グループが集まり遅くまで懇談した。

25日は彦根出身の写真家・今森光彦氏の講演会「自然を観る」。写真に関心ある者として、楽しい話と映像を堪能した。しかし、画面を通してみるびわ湖を取り巻く自然の変貌に、環境保護の大切さを痛感した。

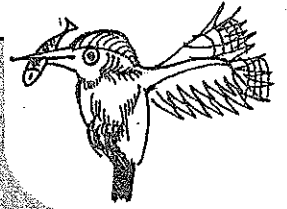
最後に閉会式、地元若手による野洲・新旭会議のまとめ「野洲・新旭宣言」発表で、すべて終了。

(宮田)



(上) 最終日の記念講演

(下) 第1日目の全体集会
パネルディスカッション



あなたは今年になってカワセミに何度出会われましたか？ 私は…

「とても数え切れません。私の住む団地の中を流れる川がカワセミのレストランなのです。でも、カワセミって何度出会っても必ず嬉しくなるものなんです。今日は良いことがあったなあって」。

千里川を考える会は、8月で満17歳を過ぎ、今、18年目に入ったところです。17年前といえば、社会全体のムードは「自然なんて目じゃない、特に都市の川は、^{あんきょ}暗渠にして駐車場にすればどんなに多くの人

が便利になるか！」というものでした。実際に大阪市内の川が駐車場になり新聞で絶賛された時代でした。

千里川は、豊中市の西部を北から南へ縦断している川で、私達の活動拠点は市内最上流部分の北緑丘と野畑辺りになります。

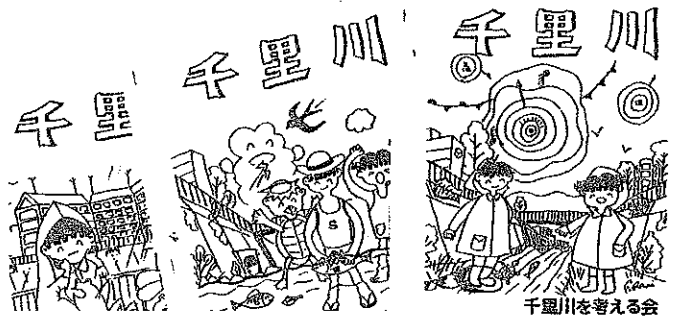
私達のとりあえずの目的は、せっかく団地の中を流れている川をきれいに保ちたいということでした。それにはまず周りの人達に川に関心を持ってもらうこと、そのためにもやっぱり川はきれいでなければなら

ないことになります。

まず実行！ と、初年度から地域に呼びかけての清掃を年間4・5回行い、後は時々各自で清掃をすることになりました（昨年からは毎週月曜日を清掃の日に行っています）。

会員にとっても汗を流すだけでは面白くない。川に心を寄せるためには「楽しまなくちゃあ」と、野草のてんぷらやお月見の宴には川原で一献傾けます。盃片手に話すことはやはり川のこと、野鳥・野草・魚のことなど自然に関する諸々^{もろもろ}のこと。でも互いに鳥の名前も知らないのでは話も弾まないので、毎年探鳥会に、あるいは他市の川の見学など勉強と称して遠出も楽しめます。

行事に参加できなかった人のためにと、発足5カ月後から発行した会誌『千里川』（月刊・B5・10頁）



千里川を考える会

は、今198号制作中です。

同じ川を見ても思いは様々、会員の人生も様々ならそれぞれお持ちの知識も様々、そんなこんなを少しずつでも共有できたらと発行した会誌は「読むだけでも」や「川には遠いけれど…」という読者会員を増やしました。自ずと内容も川だけではなく広く環境全体に思いを馳せることになります。

17年の間に川もだいぶ私達に近づきました。

階段など気軽に降りるところができ何時でも川に降りられます。

川岸に木がないのは川らしくない光景です。樹は夏の太陽をさえぎって水温が上がるのを防ぎ水中の生きものに日陰をつくります。初期の頃にコンクリートで覆っていない土の部分に植えた樹木は、だいぶ大きくなりました。現在は行政で毎年少しずつ法面^{のりめん}（護岸の傾斜になっている部分）に穴をあけて低木を植え、その世話は会員がするというパートナーシップで緑を増やしています。

この川に、特別視されるような動物も植物もありません。でもずーっと見続けている私達には、常に自然は変化し、いつも何か心を騒がせ、仲間と語り、道行く人に一言声をかけさせるものがあるのです。

希少種があるからその自然を残しておくのではなく、希少種にしないように自然を大切にしたいと思います。

例えば、あなたが駅舎を出たとき、目の前に大きな建物であるのと、たとえ小さくとも自然であるのと、どちらを好まれるでしょうか。

（千里川を考える会 荒井道子）

ひと・人・hito 橋本忠男さん（豊中の農業を守って）

このコーナーでは、地域や家庭など身近なところで環境に取り組んでいる人を紹介しています。

橋本忠男さん（67歳）、畑の風と夏の太陽にさらされた顔。それでいてやさしそう。人に安心をあたえてくれる顔。豊中農事研究会代表と聞いていましたが、名刺には農業委員と走井水利組合長の肩書きもあります。

——戦前からの農業と化学肥料を使うようになってからの農業とを集会で話していたのが強く印象に残っていますが…。

「化学肥料が一般に使われるようになったのは昭和25年ごろからでしたか。その後10年余りしてわかってきたのは、稲の粘り気がなく、わらに力がなくて風ですぐ倒れることでした。馬鈴薯も見かけは同じでも中に空洞が出来ます。そんなことに気づき、土を肥やすためにれんげをまくようになりました」

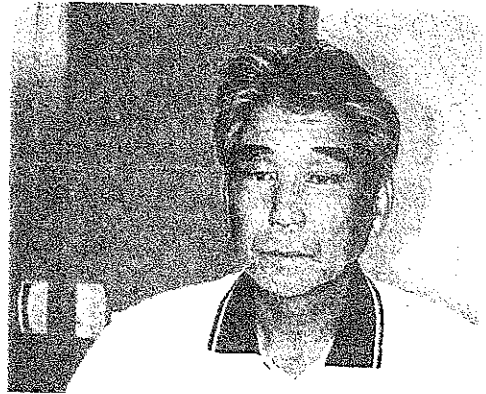
——れんげの効用は？ れんげ祭りはいつ頃から？ 種代が高くつくでしょう？

「れんげをまくことを始めたのは14年ぐらい前。その後れんげ祭りとして定着し、今年で第9回になります。今使っているれんげは中国産で、日本の種だと根の深さが30センチ位ですが中国のものは50センチになります。それを耕耘機ですき返すと、やわらかで非常によい土になります。れんげは豆科植物ですから根に根粒もでき、肥料としてもよく効きます」

「れんげ祭りにしたのは公園緑地課からも支援を受け緑化の意味で行うようになったからで、周辺の学校5、6校に呼びかけています。子どもが自然に親しむ意味でも、有意義な年中行事だと思っています」

——子どもたちが畑にはいると土を踏みつけて固くなるのでは？

「土を踏みつけても、トラクターですき返すから心配ありません。むしろ最初に心配したのは畑にごみなどを捨てたりしないかでした。そのため2つのルールを決めました。ひとつはビニール袋を捨てない。もうひとつは飲み物のビン・缶を捨てないこと。実際にやってみると、みな行儀よくビニール袋の散乱はなかった



し、飲み物も水筒持参でした。それに、れんげ畑は踏みつけられ草が寝てしまい、2ヘクタールほどの田んぼがカーペットを敷いたようになります。もし空缶などが放置されてもすぐに目につきます」

——生ごみからの堆肥を使った感想は？

「すすめられて1反に100袋（7百キロ）の堆肥を入れました。普通の肥料は機械でまきますが、これは手でまくしか仕方がない。力仕事が少ない昨今だが止むを得ません。息子の手を借り2人で40分ぐらいかけまき終わることができました。堆肥を入れた田は水を張ると黒い水になりました。水が土中に浸みこむのを待ち、再び水を引き入れました。水の色を見るだけで堆肥がいかに多くの養分を含んでいるかよく分かりました」

——生ごみ堆肥化実験プロジェクトが造った製品について、注文や意見は？

「堆肥などで問題なのは、重金属の混ざっていないこと、成分がはっきりしていることが重要です。以前に近くの農家で肥えた土だからと使ったところ、重金属が混ざっていたことがありました。そんなことになると畑の土をすっかり入れ替えなければなりません。皆さんの堆肥は物がわかっているし、検査もしているから安心していきます」

——塩分などは心配ありませんか。

「それは大丈夫。もっと塩分の多い化学肥料もあるぐらいですから」

話を聞く1時間がなんと短かったことか。（奥野）

創作民話「泣き出したマチカネワニ」

マチカネワニは、あっけなく面接に受かってしまい、うれしさに歯をカチカチ言わせました。

「そう、その鋭利な歯が欲しかったんや。すばやく裁断できそうやな。ちょっとやってみるか。」

人事部長が紙をワニに噛ませて引っぱると、さらりと素麺のような紙束になりました。

「うわっ、こりゃーいい。かったい歯やな。カートリッジもいらんな。今日からでも来てくれ！」

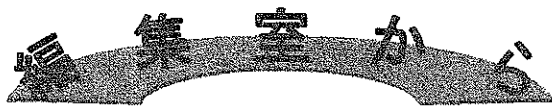
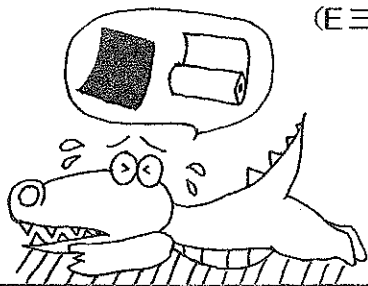
「では、あの、あ、あすたからお願いします。」

マチカネワニは家に帰りました。でも、どうした、泣きそうな顔で寝転んでいるではありませんか。

部長が試しに使った紙はワニの履歴書でした。素麺束になり、無残にもカシャカシャと捨てられました。それに、紙を噛んだ時、いやな後味がしました。これから毎日、言われた通りまずい紙を裂き続けるのか...。FAX紙やカーボン紙なんか持ってこられたらどうしよう。気分悪くても誰も分かってくれないだろうな。

いろいろ悪いことを考えたらワニはもう本当に泣き始めてしまいました。(次回へつづく...)

(E三宅)



秋から年末にかけては、毎年色々な活動がきびすを接し次から次へと目白押しである。8月の豊中まつりの環境プラザに引き続き、12月の環境展も用意しようとするすでに実行委員会の設置が日程に入ってきた。その間にくらしかんの生活展もあるし、何よりも行政とのパートナーシップを確かめるかのように「環境フォーラム」も開かれる。一方では走りながらも、一方では1年間の活動をしっかりと振り返る機会である。どのようにこのみのりの秋を過ごすかが、来年の発展の下地をつくる。心して充実した活動を進めたい。(Z) 《広報チーム》Z奥野、M荒井、R水谷、E三宅、N富田、M山本、A亀村

今後のスケジュール

交通部会

- 日時 10月11日(木) 15:00~17:00
- 場所 互惠ビル 203号室

自然学習講座Ⅱ

- 日時 10月13日(土) 13:30~15:30
- 場所 岡町図書館(3階)
- 内容 サル学研究—アフリカの野外研究から
- 講師 大澤 秀行さん

産業部会講演会

- 日時 10月17日(水) 14:00~16:00
- 場所 国際交流センター イベントホール
- 内容 京都環境アネイズ・カトリック(KES)の取り組み
- 講師 鍵谷 KES 審査員

わかまちとよなか再発見

- 日時 11月3日(土) 10:00~12:30
- 場所 服部駅改札東側で集合
- 内容 西福寺の群鴉図の観賞と天竺川の探索
- 定員 40名、小学生以下は保護者同伴

環境フォーラム

- 日時 11月5日(月) 14:00~16:00
- 場所 すてっぷホール(豊中駅前11F5階)

市民環境展

- 日時 12月1日(土) 13:00~17:00
12月2日(日) 9:00~17:00
- 場所 市民会館大集会室

*詳しくは「広報とよなか」をご覧ください。

◎次の部会等は定例的に会議を行っています。参加を希望される方は、事務局までお問合せください。

- 自然部会 毎月第2月曜日 18時~
- 生活部会 毎月第3土曜日 13時30分~
- ワーカーグループ 毎月第3木曜日 19時~

発行：とよなか市民環境会議

編集責任：奥野 享

事務局：豊中市生活環境部環境企画課内

〒561-8501 大阪府豊中市中桜塚3-1-1

TEL: 06(6858)2106 FAX: 06(6842)2802

★とよなか市民環境会議は、市民・事業者・行政のパートナーシップ組織です